

H28年度 韓国研修報告

大学見学

東国大学ソウルキャンパスを学生さんの案内で見学しました。



薬学部のキャンパスはとても広かったです。



韓方市場



たくさんの生薬があり、驚きました。
韓方の歴史も学びました。



2016年8月17日～8月20日

- 1日目 東国大学ソウルキャンパス
- 2日目 東国大学イルサンキャンパス
東国大学大学病院、地域薬局
- 3日目 韓方市場、韓方博物館

参加者

- 5年生 梅谷 明佳里、高田 ゆうき、林 あゆみ、宮本 花純、平野 友香
- 4年生 竹澤 秋穂、三宅 智美
- 3年生 加藤 優希、神谷 侑未、原川 奈美、村上 茉奈美、

病院・薬局見学



韓国では鍼治療なども主流で、東国大学大学病院には、韓医学専門の病棟がありました。門前薬局では東国大学の学生が、実習をしていました。

ごはん



再会



私たちが帰国した後、韓国の学生さんが8月24日～8月27日に来日しました。楠元キャンパスで歓迎会をし、翌日は、一緒にエーザイ工場の見学をしました。

韓国研修報告

加藤 優希

3年 14A048

8月17日～20日、本学から11名の学生が参加し韓国での4日間の海外研修が行われた。研修では、東国大学薬学部や大学病院、調剤薬局、韓方市場や韓方博物館を見学した。また、東国大学の学生と交流も行った。今回、私は主に大学病院と韓方市場についてまとめた。

東国大学病院

東国大学の附属病院で、病床数は630床である。我々が訪問した18日の午後もたくさんの人が出入りしていた。今回は病院の薬剤部及び韓医学の外来の治療室を見学した。

薬剤部では主に入院患者さんへの薬の調剤が行われており、薬剤部とは別の階に漢方薬専門の調剤場所もあった。経口薬の調剤は自動化されており、機械が行っていた。機械が調剤した後、日本と同じように監査を行っていた。麻薬は鍵のかかる金庫に保管されていた。また、DI室や抗がん剤の調製室なども外からであったが見学することができた。抗がん剤の調製時には、日本と同様にガウンやマスク、手袋などを着用していた。

薬剤部、韓医学の外来治療室を見学した後、漢方の処方を行っているところを見学した。ここでは、入院患者さんには毎日やかんのようなもので煎じ、外来患者さんには1回につき10日分の漢方薬を出しているそうである。生薬は、大きなそれぞれ名前が書かれた引き出しに

しまわれており、よく使う生薬には複数の引き出しが用意されていた。また、半夏の引き出しに赤い印がついている理由を尋ねたところ、使い方に注意が必要であり、処方された際に注意を促すため、とのことだった。

韓方市場・韓医薬博物館

3日目の午前中には、韓方市場と博物館を見学した。韓方市場では、至る所で生薬が外で売られているのを目の当たりにし、非常に驚いた。ハンゲルで書いてあるも



図2 多くの生薬



図1 病院の外観



図3 並べられた生薬

のばかりで実物を見ただけでは何の生薬なのか判断できるものは少なかったが、店によっては漢字で書いてあるものもあったため、楽しみながら見学することができた。

博物館では、韓医学の歴史を紹介する資料や多数の韓方薬材を見ることができた。また、体験室では人間の体質を体格や容姿、情緒などで4つに区分される四象体質というものを鑑別した。鑑別の結果、私は腎臓の機能は良いが脾臓と胃は弱いという少陰人であった。他にも太陽人、太陰人、少陽人があるそうである。

感想

4日間という短い時間ではあったが、韓国の病院や薬局、薬学部を見学するという非常に貴重な経験ができて勉強になった。見学している途中、様々なところで日本との共通点や相違点を発見することができ、今後の自分に生かしていきたいと強く感じた。また、今回の研修を通じて韓国の薬学生と交流を深められたことは自分にとって忘れられない経験となった。研修で学んだことを忘れず、これからも様々なことに挑戦し、努力していきたいと思う。